

「帰れソレントへ」期末テスト対策ポイント

「帰れソレントへ」とは

帰れソレントへ
イタリア名「Torna a Surriento」
曲の種類： カンツォーネ
作詞者： ジャンバッティスタ・デ・クルティス
作曲者： エルネスト・デ・クルティス ※作詞者と作曲者は兄弟
拍子： 4分の3拍子
調： ハ短調・ハ長調（主音はハ）
速度： Moderato（中ぐらいの速さで）
作曲された年1902年

カンツォーネとは

「帰れソレントへ」はイタリアの歌曲。

こういう「イタリアの歌曲」のことを「カンツォーネ」というよ。

「カンツォーネ」という言葉は、必ずテストで出るといってもいいくらいなので、必ず覚えよう！

「カンツォーネ」で有名な曲は他に、「フニクリ・フニクラ」「オー・ソレ・ミオ」「サンタ・ルチア」などがあるよ。「フニクリ・フニクラ」は「♪鬼～のパンツはいいパンツ～」で有名な曲だね。

調について

「帰れソレントへ」の調は、ハ短調とハ長調。

どうして調が2つもあるのかな？

「帰れソレントへ」は、途中で曲の調がハ短調とハ長調の間で変わるからなんだ。

ハ長調とハ短調は、どちらも主音が「ハ」だよ。

「ハ」は、階名でいうと「ド」の音だね。

「主音」とは、音階のはじめの音のことだよ。



【ハ長調】



【ハ短調】 ホ(ミ)・ロ(シ)・イ(ラ) に「b」がつく



ハ短調の音階では、ホ(ミ)・ロ(シ)・イ(ラ)の3つの音にb(フラット)がつくよ。
ハ長調が明るい印象なのに対して、ハ短調は暗い印象をうけるね。

同主調とは

「同主調(どうしゅちょう)」とは、「同じ音を主音とする長調と短調」のこと。
ハ長調とハ短調は、どちらも主音が「ハ」だよ。つまり同じ音を主音にしているんだ。

転調とは

転調(てんちょう)は「調が転じる」、つまり「曲の調が変わる」こと。
「帰れソレントへ」の曲は、途中で曲の調が「ハ短調→ハ長調→ハ短調→ハ長調→ハ短調」というように変わっていくよ。

4分の3拍子とは

4分の3拍子とは、「1小節に♪(四分音符)が3拍分入る」ということ。



ソレントとは

ソレントは、南イタリアのソレント半島にある、海山沿いの町の名前だよ。
ナポリ湾に面しているの、目の前に広がる海の景色がすばらしいところなんだ。

歌い方について①

「帰れソレントへ」は、イタリアの代表的な「ベルカント」という発声法を使って歌われるよ。
「ベルカント」とは、「美しい歌唱」という意味のイタリア語なんだ。
この「ベルカント」という言葉はほぼテストに出ると言ってもいいので、かならず覚えよう！

歌い方について②

「帰れソレントへ」は、恋人にソレントへ戻ってきてほしい男性の恋心を表現している曲なんだ。
そんな男性の気持ちを表現するように、歌うときの強さがp(ピアノ・弱く)→mf(メゾフォルテ・やや強く)→f(フォルテ・強く)というように変化していくよ。

「帰れソレントへ」歌詞の意味

「帰れソレントへ」は、恋人にソレントへ戻ってきてほしい男性の恋心を表現しているんだ。

ちなみに「帰れソレントへ」は、ソレントの町に来賓(お客様のこと)がやってくる時に、おもてなしするために市長がジャンバッティスタ・デ・クルティスとエルネスト・デ・クルティスの兄弟に作詞作曲を依頼したんだよ。

日本語歌詞に出てくる「シレーネ」とは、ギリシャ神話の海の怪物セイレーンのこと(シレンともいう)。

上半身が人間の女性で、下半身が鳥または魚なんだ。

美しい歌声で海を航行している人を惑わして遭難させると言われているよ。



「帰れソレントへ」まとめ

「帰れソレントへ」まとめ

- 曲の種類は「カンツォーネ」
- 作詞者はジャンバッティスタ・デ・クルティス
- 作曲者はエルネスト・デ・クルティス
- 拍子は4分の3拍子
- 調はハ短調とハ長調（主音はハ）
- 速度はModerato（中ぐらいの速さで）
- 作曲された年は1902年
- 恋人にソレントへ戻ってきてほしい男性の恋心を表現している
- 「ベルカント」とは、イタリア語で美しい歌唱という意味の発声法
- 同主調とは、同じ音を主音とする長調と短調のこと。
- 転調とは、曲の途中で調が変わること。
- 「ハ短調→ハ長調→ハ短調→ハ長調→ハ短調」と転調する
- 歌うときの強さがp→mf→fというように変化していく
- カンツォーネには、他に「フニクリ・フニクラ」「オー・ソレ・ミオ」「サンタ・ルチア」などの曲がある

